青梅療育院のお知らせ　　令和３年１１月号

発行責任者／七枝　隆志　　編集／介護老人福祉施設　青梅療育院情報委員会

《社会福祉法人 仁育会 経営理念》

地域との連帯を深め信頼される社会福祉施設としての確立と、安心と安全を守るゆとりある生活支援を目指します。

《青梅療育院運営方針》

1. 利用者から安心されるサービスの提供
1. 生活の安全を守るサービスの提供
1. 要介護度に応じた適切なサービスの提供

＝１１月の行事計画＝

２日（火）理髪３階
３日（水）文化祭
８日（月）誕生会
１２日（金）選択食

１６日（火）理髪２階
１９日（金）寿司の日
２６日（金）選択食
※日付未定　変わり湯

＝１２月の行事計画＝

２日（木）誕生会
１０日（金）選択食
１４日（火）Ｘｍａｓマーケット
１５日（水）Ｘｍａｓマーケット

１７日（金）寿司の日
２２日（水）選択食
２４日（金）クリスマス会
※日付未定　変わり湯

＝感謝と思いやりの心＝

長い人生を生きていくためには、多くの人たちとの支え合いや思いやりに助けられて生きているもので、人の役に立ってこそ人間であり、介護福祉はまさに相互扶助の基本となるものです。

しかし、このような当り前の常識が、近年になって忘れ去られようとしています。「向こう三軒両隣り」の時代から半世紀以上が過ぎ、最近では「自分さえよければ」という意識が先行し、社会のルールや公共のマナーが守れない社会環境の変化へと、世の中が大きく転換してしまっているような気がします。

挨拶が良くできる職場は活気があって和やかで、業績も向上しているといわれています。特に職場での朝の挨拶は、お互いの体調を確認する大切なサインであると思います。

近年は子供に対する犯罪の多発で、「知らない人に声をかけられても返事をしてはいけません。」と親から教えられています。確かに犯罪から守る正しい判断ですが、この風潮が大人になっても「挨拶をしない」「挨拶が正しくできない」という人間になっていると教育学者が言っています。また、近所同士でもよく挨拶を交わしている町内は、犯罪が少ないというデータが示されています。

日本には古くから助け合うという土壌があり、世界の中でも優しくてマナーの良い国という伝統がありますが、この良き風潮が最近では崩れてしまっているようです。思いやりの心が失われてきているからではないでしょうか。

昔からビジネスの現場には、「ほうれんそう」という用語がありますが、これは報告・連絡・相談の頭文字を一つにして読んでいるものです。介護や医療の現場では直接、人の生命を責任持って受け入れる所ですから、独自の判断で行動すると大きなミスや事故に繋がることになりますので、自分で判断できない状況や不安に感じたときは、直ちに上司に報告し、関係する担当部門との連絡を行うことが基本となっています。また、経験の浅い職員には何でも相談するように徹底し、上司や先輩の助言や指導を受けて、事故の拡大を未然に防ぐことを徹底していくように心掛けます。

まだまだ完全に事故をなくすことは出来ませんが、組織ぐるみで真剣に取

り組んでいく必要を強く感じておりますし、これからも思いやりの心を強く持って安全な介護サービスの提供に努めてまいります。

１０月の個別レク

個別レクリエーションでは、
利用者さんのやりたいこと応援します！！

～季節外れの花火～

めっきり秋ですが、利用者さんの
花火がしたいを応援！！

～美味しいジェラートが食べたい！～

今年の１０月は暖かい日が続いたため、
利用者さんの「冷たいジェラートが食べたい」を応援！！

～ドライブに行きたい！～

「ドライブで天寧寺に行きたい」を応援！！

秋の味覚　美味しい柿をいただきました！

地主様の畑にたわわに実った柿をお裾分けしていただきました！！

秋の大運動会！！

１０月２４日　秋の大運動会を開催しました！
紅組・白組の白熱した戦いは白組が見事勝利を飾りました。